

1 市町名 上里町

2 課題をもとにした仮説

- ・学び合い学習を基盤とした「主体的・対話的で深い学び」への授業改善をめざし、子供一人一人の資質・能力を育む「学びの改革」を図る。また、各学力調査の結果をより詳細に分析し、「学力の伸び」などに成果のあった教員や学年、学校の取組を明らかにして全町で共有する。その結果、学力のさらなる伸びが期待できるであろう。

3 効果的な取組の例

(1) 市町教育委員会における主な取組例

①具体的な取組例

○上里町教員指導力向上研修事業の実施

小学校は年6回、中学校は年5回、大学等から指導者を招聘し、教員の指導力向上を目指した校内授業研究会を実施した。町全体で学び合い学習を位置付けた授業改善を図ることができた。

○学力向上推進委員会の充実

学力向上推進委員会では、県学調・全国学調のデータ分析（R2は県学調のみ）を実施。年5回のうち、第1回は全国学調の後、各学校で自校採点を行い、その結果について分析し、町の課題を確認した。また、第3回では、県学調の結果の分析の仕方について、義務教育指導課指導主事に指導していただき、学習支援カルテ「コバトンのびのびシート」や帳票の活用の仕方を知り、各学校で実践した。

○教育講演会の開催

学習院大学 佐藤 学 教授（H30）・埼玉大学 庄司康生教授（R1）による協同学習をテーマにした講演会を開催（町内全教職員対象）。町全体の取組として学び合い学習の理念を町内全教員で共有するとともに、授業改善への意識の高まりにつながった。

○協同学習先進校視察

学び合い学習の先進校の視察を4回実施。（町内各小中学校代表者参加）。視察で学んだことを自校に広めることで、各学校で学び合い学習の推進につながった。（H30、R1）

○授業改善に結び付ける問題作成活用研修会の開催

夏季休業中に1学期に行った学び合い学習の授業実践レポートを持ち寄り、他校の教員と研修を実施。具体的な実践を基に話し合い、課題となっていることやジャンプの課題の作成など学び合い学習について深めることができた。（R1）



【学び合い学習の様子】

②取組の成果と課題

- ・町内全小中学校で「学び合い学習」を中心とした授業改善を行い、A Lについては年々順調に伸びた。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業もあり、伸びが心配されたが、平成31年度と同等であった。
- ・上里町全体としてみると、学力の伸びに課題が見られる学年・教科が多い。特に、令和2年度は算数・数学の学力の伸びに課題が見られた。大幅に学力を伸ばしている学級もあるため、その学級の指導を学校だけでなく町全体に広め、共有していく必要がある。町全体で取り組んでいる「学び合い学習」については、研修を重ね、授業改善に取り組んでいる。小・中9年間の連続した学びの実現に向けて、「学び合い学習」のさらなる定着を図っていく。

(2) 重点校における主な取組例

①具体的な取組例

○県学調の結果から明らかになった課題から、「学び合い学習」を基盤とした「主体的・対話的で深い学び」の充実を図った。主な取組は以下のとおりである。

- ・「学び合いのやくそく」の作成と授業での活用
- ・共有課題と高い課題（ジャンプの課題）の設定
- ・学習支援カルテ「コバトンのびのびシート」を全児童分作成し、児童の実態調査と結果の分析、改善策を検討
- ・アンケート結果から、効果の高かった取組の共有
- ・主体的・対話的で深い学びの場となる授業隊形の工夫
- ・興味・関心、習得、活用、探究を意識した学習過程
- ・学年ブロック研修、部会別研修の実施
- ・算数の「ノート使い方」を作成
- ・学んだことが分かる、考えが深められるノート作りの指導
- ・詩と学年の学習に合った暗唱
- ・学年に応じた短作文
- ・県学調の全職員による分析、学力を伸ばした取組の分析・共有
- ・C R Tの分析（正答率の考察、異学年・同学年の比較による課題と伸びの分析等）



【校内授業研究会】

②取組の成果と課題

- ・県学調の結果によると、どの学年も国語、算数ともに県まであと1～3レベルと及ばなかったが、昨年度と比べると全ての層の児童に伸びが見られた。
- ・学習支援カルテ「コバトンのびのびシート」の活用を図る。
- ・来年度から本格的に始まる1人1台のタブレットパソコンの有効な活用を研究していく。
- ・一人一人の学びを保障した「学び合い学習」を基盤とした「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研修を充実させていく。